

安全データ シート

1. 製造及び会社情報

製品名 男前モノタロウ バイク用汎用4サイクルエンジンオイル (MA SL 10W-30)
会社名 株式会社MonotaRO
所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階
担当者名 商品お問合せ窓口
電話番号 0120-443-509
FAX番号 0120-289-888
緊急連絡先 所在地と同じ
整理番号 M170619
作成日時 平成29年6月15日

2. 危険有害性の要約

GHS分類 主な危険有害性は次の通り

引火性液体	区分外 (シンボルなし、注意喚起後なし)
急性毒性 (経口)	区分外 (シンボルなし、注意喚起後なし)
急性毒性 (経皮)	区分外 (シンボルなし、注意喚起後なし)
急性毒性 (吸引、ミスト)	区分外 (シンボルなし、注意喚起後なし)
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分外 (シンボルなし、注意喚起後なし)
特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	区分外 (シンボルなし、注意喚起後なし)
特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露)	区分外 (シンボルなし、注意喚起後なし)
吸引性呼吸器有害性:	区分外 (シンボルなし、注意喚起後なし)

GHSラベル要素

絵表示:	なし
注意喚起語:	なし
危険有害情報:	なし

3. 組成及び成分情報

化学名	石油系炭化水素及び添加剤
成分及び含有量	潤滑油基油 80～90 wt%
潤滑油添加剤	10～20 wt%
化学式又は構造式	構造不明
官報公示整理番号	(9)-1692
	(化審法・安衛法)
CAS NO	混合物 国連分類及び国連番号 64742-54-7

4. 応急処置

目に入った場合 清浄な水で最低15分位 目を洗浄したのち医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 水と石鹼で付着した部分を洗う。

飲み込んだ場合 無理に吐かせないで医師の手当てを受ける。口の中の汚れは水で十分に洗う。

応急手当後 異常を感じる場合はただちに、医師の診断、手当を受けること。

5. 火災時の措置

- ①火もとへの燃焼源を断つ。
- ②初期の火災には、粉末・炭酸ガス消火器を使用。
- ③大規模火災の際は泡消化剤を用いて空気を遮断する事が有効で有るも、注水は火災を拡大し、危険を伴う場合は現地消防職員の指示に従う。
- ④周囲の設備に散水して冷却する。
- ⑤消火作業の際は、風上から行い、保護具を着ける。
- ⑥火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りをさせない。

6. 漏出時の措置

- ①周囲の着火源を取り除く
- ②大量の場合 漏出した周囲にロープを張るなどして立入りを禁じ、漏出オイルは土砂でその流れを止め安全な場所に導き空容器に回収する。
河川下水管等に排出しない様にする。
- ③少量の場合 土砂・ウエス等に吸着させ空容器に回収する。
- ④海上の場合 略。

7. 取扱い及び保管上の注意

- ①指定数量以上の取扱いは、法で定められた取扱所等で行う。
- ②炎・火花・高温物質との接触を避け濫りに蒸気を発生しない。
- ③常温で取扱い、その際水分夾雑物の混入を避ける。
- ④静電気対策を行い作業衣・靴等も導電性のものを使用する。
- ⑤製品置場は換気及び火気などに対する注意が必要。
- ⑥危険物が残存している器具等を修理する場合は、安全な場所で抜きとってから行う。
- ⑦皮膚に触れたり目に入る恐れのあるときは保護具を着ける。
- ⑧使用後の容器は密閉し換気の良い冷暗所で保管する。
- ⑨保管場所では強酸性・アルカリ類・酸化性物質との混在を避け、使用する電気器具は、防爆型とし接地する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	規定なし(作業環境基準 労働省告示第79号 S 63.9.1)
許容濃度	日本産業衛生学会(1993年版) 3mg / m ³ (鉱油ミストとして) ACGIH(1998~1994年版)
時間荷重平均	TWA 5mg / m ³ (1998~1994年版)
設備対策	ミストが発生する場合は発生源の密閉化又は排気装置を設備取扱い場所の近くに洗眼・身体洗浄設備。
保護具	長期間又は反復し接触する際は眼鏡・耐油性の靴・作業衣を着用。

9. 物理的及び科学的性質

外 観 性	茶色の液体
揮 発 性	常温で揮発性なし
溶 解 度	水にほとんど溶解しない
密 度	0.8709
引 火 点	224 °C以上 (COC)
爆発限界	上限 7.0% 下限 1.0% 推定値
Viscosity @ 100°C	11.39 cSt
Viscosity @ 40°C	75.74 cSt
流 動 点	-20
可 燃 性	有り
発 火 性	自然発火性・水との反応性無し
酸 化 性	無し
自己反応性・爆発性	無し
安 定 性	安定
反 応 性	強酸化剤との接触を避ける

10. 安定性及び反応性

科学的安定性	常温・常圧で安定。
避けるべき条件	強酸化剤との接触を避ける。
混触危険物質	強酸化剤と接触すると反応する可能性がある。
危険有害な分解生成成分	燃焼等により一酸化炭素等が発生する可能性がある。

11. 有害性情報

皮膚腐食性及び皮膚刺激性	皮膚への刺激性はないと思われる。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性はないと思われる。
呼吸器感作性	呼吸器感作性はないと思われる。
生殖細胞変異性	生殖細胞変異性はないと思われる。
発がん性	配合成分を基に、区分外とした。
生殖毒性	生殖毒性はないと思われる。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	特定標的臓器毒性、単回ばく露に関する有毒性はないと思われる。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	特定標的臓器毒性、反復ばく露に関する有毒性はないと思われる。
吸引性呼吸器有毒性	GHSの危険有害性区分の判定基準である40℃で測定した場合の動粘度が20.5mm ² /s以下の炭化水素に該当しない。

12. 環境影響情報

分解性	現在のところ有用なデータ無し。
蓄積性	現在のところ有用なデータ無し。
魚毒性	現在のところ有用なデータ無し。
その他	現在のところ有用なデータ無し。

13. 廃棄上の注意

- ①事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。
- ②投棄禁止。
- ③埋立て処分を行う場合、安全な焼却設備で燃焼し燃殻を埋立てする。

14. 輸送上の注意

①危険物の規制に関する規制缶。

ドラム缶（200L） ペール缶（20L） ポリ缶（4L×6入）ケース詰 ポリ缶（1L×20入）ケース詰

②容器表示 危険物の品名 第四類第四石油類 危険等級Ⅲ 潤滑油

③数量

- ④火気厳禁
1. 容器が著しく摩擦又は動揺を起さないように運搬する。
 2. 指定数量以上運搬する場合は、自治省令に定められた通り当該車両に標識を掲示し、且つ消火器を携行する。
 3. 運搬時の高さは3mを超えないこと。
 4. 他の類別又は高圧ガスと混載しないこと。

15. 適用法令

労働安全衛生法	鉱油を含む
政令番号	168
化学物質管理促進法（PRTR法）	168
毒物劇物取締法	対象物ではない
化審法及び労安法の既存化学物質名簿への登録	(9)-1692
消防法 危険物	第四類第四石油類 危険等級Ⅲ
水質汚濁法	油分排出規制（5mg/1許容濃度） ノルマルヘキサン抽出分として検出される
海洋汚染防止法	油分排出規制（原則禁止）
下水道法	鉱油類排出規制（5mg/1）
廃棄物の処理清掃	拡散流出の禁止 空容器の投げ捨て禁止

16. その他の情報

(参考文献)

1. ANZI Z 129.1-1994 American National Standard Institute.
2. 絵で見る中毒110番（保険同人社）
3. IRAC MONOGRAPHS ON THE EVALUATION OF THE CARCINOGENIC RISK OF CHEMICALS
TO HUMANS VOLUME 33
4. EC委員会指令「67/548/EEC」の付属書 I 「危険な物質リスト」

製品安全データシートは危険物の安全な取扱いについての参考資料として配布致しており、これを参考に個々の実態に応じてご活用、お取扱いをお願い申し上げます。